

西光寺だより

第六十三号 平成二十七年十一月一日発行

●今月のことば●

いよいよ寒い季節になり、もうすぐ報恩講の時期だと感じる方もおられると思います。今回は『正信偈』の構成についてふれてみたいと思います。『正信偈』は、三区分に大別することができます。

・第一は、「**帰敬頌(きききょうじゆ)**」とよばれる最初の二句、『**帰命無量寿如来**』『**南無不可思議光**』を指し、これは親鸞聖人が『正信偈』の偈頌をお作りにならうと、まずご自身の信心を表明されたものです。

・第二は、「**依経段(えききょうだん)**」とよばれ次の四十二句『**法蔵菩薩因位時**』～『**難中之難無可斯**』までを指し、お経に依って讃えられる段であり、浄土往生の正因は信心であり、念仏は報恩行であることを説明し讃嘆し、「**仏説無量寿経**」の叙述に基づいてうたわれた讃歌であります。

・第三は、「**依釈段(えしやくだん)**」とよばれ、その次から最後まででの七十六句『**印度西天之論家**』～『**唯可信斯高僧説**』までを指し、七高僧の釈に依って讃えられる段であり、お釈迦様以降にインド・中国・日本に出生された七高僧方の浄土の真宗に関する業績・徳を讃嘆し、「**仏説無量寿経**」の精神を継承された七高僧の教えを讃えられた讃歌であります。

以上の構成にそって進めていきたいと思ひます。詳しくは下段参照。

※七高僧とは

浄土真宗を開かれた親鸞聖人が選定された七人の高僧のこと。

印度の龍樹菩薩(第一祖) ・ 天親菩薩(第二祖)

中国の曇鸞大師(第三祖) ・ 道綽禪師(第四祖) ・ 善導大師(第五祖)

日本の源信和尚(第六祖) ・ 源空聖人(法然聖人)(第七祖)

の七人の高僧のことであります。

報恩講法要の際、余間に掛け軸が掲げてあります。

帰敬頌	初めの二句	帰命無量寿如来 南無不可思議光
依経段	阿弥陀仏の願い	法蔵菩薩因位時～必死滅度願成就
	お釈迦様の勧め	如来所以興出世～難中之難無可斯
依釈段	龍樹菩薩	印度西天之論家～応報大悲弘誓恩
	天親菩薩	天親菩薩造論説～入生死園示応化
	曇鸞大師	本師曇鸞梁天子～諸有衆生皆普化
	道綽禪師	道綽決聖道難証～至安養界証妙果
	善導大師	善導独明仏正意～即証法性之常楽
	源信和尚	源信広開一代教～大悲無倦常照我
	源空聖人	本師源空明仏教～必以信心為能入
	最後の二句	道俗時衆共同心 唯可信斯高僧説

◆十一・十二・一月の行事◆

・十一月 二十三日 (月・祝)

西光寺報恩講法要

午後二時・七時 西光寺本堂

◎御法話 本願寺派布教使 和氣 秀剛 師

・十二月 三十一日 (木)

除夜の鐘

午後十一時五十分より

・一月 一日 (金)

元旦会

午前十時～ 西光寺本堂

◆先月の報告◆

①十月三日(土) 西光寺本堂にて秋季永代経法要を厳修致しました。午後二時の永代経法要に先がけて西光寺歴代住職・坊守、四人の追悼法要をさせていただきました。歴代住職・坊守がそれぞれ生きた時代に思いを寄せ、またその同じ時代にお出会いさせていただいたであろう皆さまの先人方との思いを感じながら、命のつながりに感謝し、実感する時を過ごさせていただきました。

午後二時・七時、共に多くのご門徒の方々にお参りいただき、そして後片付けまで本当に皆様ありがとうございました。

そして前回同様、本願寺派布教使の宮部さんには大変貴重なお話をいただきました。ありがとうございます。

どんな言葉も受け止める側の気持ちや思いによって、頂いた言葉に深い意味を持つ。日々生きているとそんな忘れてはいけない大切なことを失いつつある今を改めて確認しながら、これからも精進させていただきます。感じる時間でした。

合掌



浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>